

語る塾 農職 葬祭にJAの力必要

JA東京中央子会社丹野氏講演

日本農業新聞は29日、東京都内でJA職員向けの「農を語る職員塾」を開いた。JA東京中央の子会社で葬祭事業などを手がける、JA東京中央セレモニースターの丹野浩成常勤監査役が講

演。地域と密着した葬祭事業を成り立たせるためには、JAが力を発揮する必要があることを強調した。

オンラインを併用し、JAや中央会などの役員ら約200人が参加した。丹野常勤

ら、JAの総合力が生かされる中心的存在と強調した。相互扶助、連帯感が求められる事業だとし、「地域に根付いたサービスができるのがJAだ」と話した。葬祭事業の営業では組合員・利用者からの信用が大切だと指摘。終活セミナーや遺言信託、相続相談なども強化し、ファンづくりをしていると紹介した。同塾は、未来を担う若いJA職員の学びの場として開講。組合員との対話に生かしてもらう。今回が2回目。